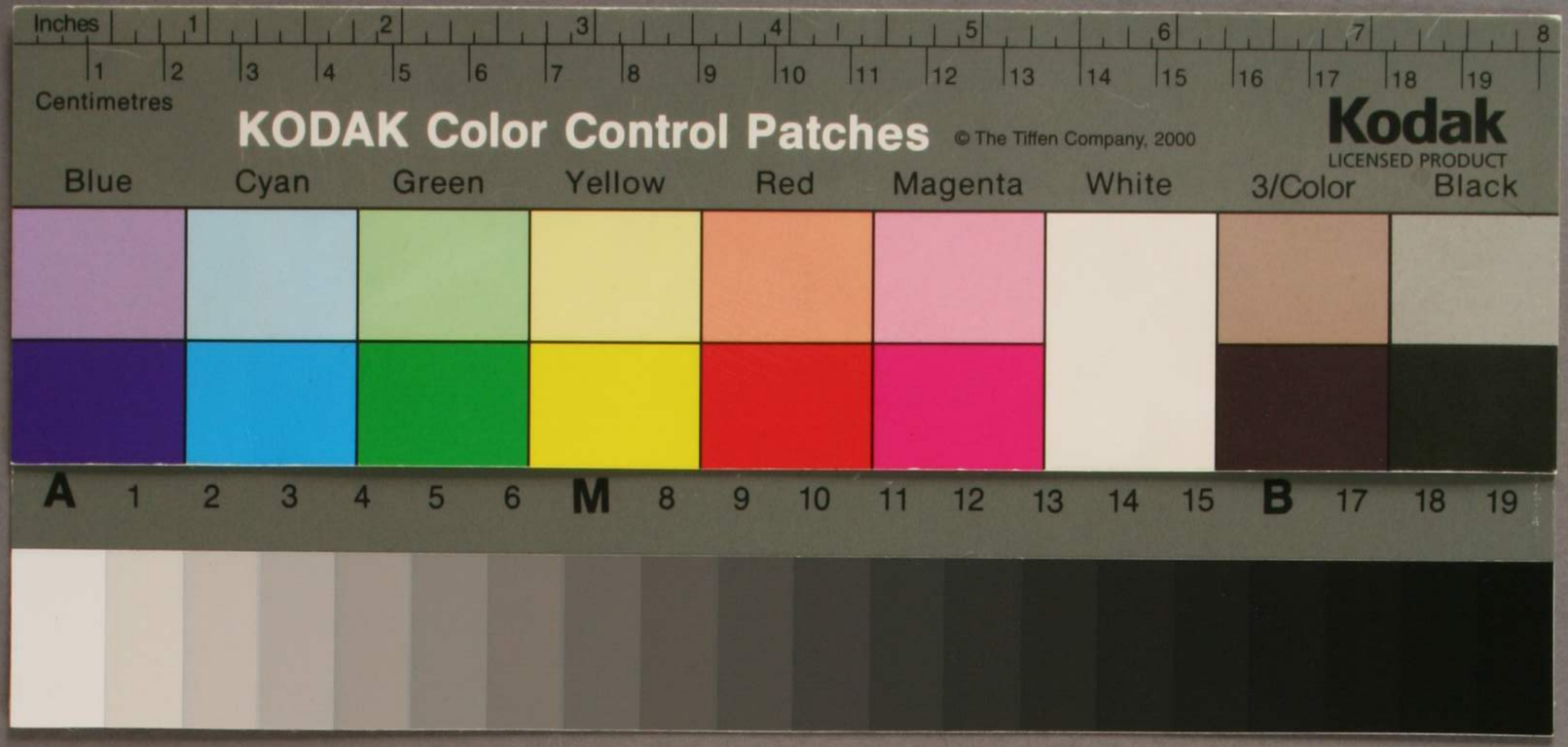
Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

洋学文庫
文庫8
C 525

おらんだ和蘭文字早讀傳受

おらんだのことばひだりよりみぎへ横よむはこれ仮名
たくさんよりとの方へよこふよみ男女ともにかなの七ツいろはは例に准じ四じうの
字素泡なりとせりのこせ書の内りそれなりの文字い巻の巻とよりかなもむ

ア A	ベ B	セ C	デ D	エ E	
フ F	ヘ G	ハ H	イ I	J 悉皆如長伊	カ K
ル L	ム M	ナ N	オ O	ヘ P	
ワ Q	ラ R	サ S	テ T	ウ U	ユ
ハ V	ハ W	ス X	イ Y	ト Z	

空 ア
別 ベ
泄 セ

あべせとうへはらんだりーれ母なり
これを拠まる文字を作るなり但し
拠てもいまは一音にて其のうるのごと

WA
WA
WE
WJ
WO
WU
WY

W56991

空別泄

あべセとてへはたんざりーれ冊なりこれを拗ある文字を作るあり但し拗ても一字一音にて日本のうなのごと

A	アー
F	フー
L	ルー
Q	ワー
V	ハー

○拗音

よういんとは反切にたとへば日本の音を帰命と「クヱミヤウ」とは疾速を「クヱハヤ」とは云ごとく拗の折こと又伸くいーく異なるなり

QU	クア HWA
QUA	クヱ HWA
QUE	クヱ HWE
QUJ	クヰ HWJ
QUO	クヲ HWO
此音カのまの行をもちる	
QUU	クユウ HWU
QUY	クヰイ HWY

○語尾字

一派一章のおりて清濁ともに右の文字を書くとえば直音にて一字にてるとる次にたとへば「と」いまをてふ「と」とたりーとをふ「ど」

S	ス
N	ン
M	ム
L	ル
VV	ウ
Z	ヅ
B	ブ
C	ク
K	ク
T	ト
F	フ
J	
R	ル
G	グ
D	ド
P	プ

○數量字

零	O ニュル	一	I ヱーン
		二	II テウヤイー
十	IO チイン	三	III デリー
五十	L ヘイフテキ	四	IV ヒール
		五	V ヘイフ
百	C ホンドルド	六	VI セス
		七	VII セイシ
五百	D ヘイフホンドルド	八	VIII アクト
		九	IX ヨゲン
千	M ドイセント	十	X チイン

1	一
2	二
3	三
4	四
5	五
6	六
7	七
8	八
9	九
10	十

ズ	DSŒ
dsœ	dsœ
dsœ	dsœ
dsœ	dsœ
dsœ	dsœ
DSŒ	DSŒ
dsœ	dsœ

び	ぴ	も	せ	ぜ	ぜ	ぜ(スエ)	す	ず	ず	ず(ズウ)
BI	PI	MO	SE	ZE	TSE	DSE	SŒ	ZŒ	TSŒ	DSŒ
bi	pi	mo	se	ze	tse	dse	sœ	zœ	tsœ	dsœ
BI	PI	MO	SE	ZE	TSE	DSE	SŒ	ZŒ	TSŒ	DSŒ

○數量字

零 0
十 10
五十 50
百 100
五百 500
千 1000

き	ぎ	ゞ	め	み	し	じ	ぢ	え	ひ	び	ぴ	も
KI	GI	JŒ	ME	MI	SI	ZI	TSI	E	FI	BI	PI	MO
Ki	gi	jœ	me	mi	si	zi	tsi	e	fi	bi	pi	mo
ki	gi	jœ	me	mi	si	zi	tsi	e	fi	bi	pi	mo
ki	gi	jœ	me	mi	si	zi	tsi	e	fi	bi	pi	mo
ki	gi	jœ	me	mi	si	zi	tsi	e	fi	bi	pi	mo
KI	GI	JŒ	ME	MI	SI	ZI	TSI	E	FI	BI	PI	MO
Ki	gi	jœ	me	Mi	Si	Zi	Tsi	e	Fi	Bi	Pi	Mo

こ	ご	じ	て	で	わ	さ	ざ	さ゜	ざ(ツア)	き	ぎ	ゝ	め
KO	GO	JE	TE	DE	A	SA	ZA	TSA	DSA	KI	GI	JŒ	M
KO	8O	je	te	de	a	sa	za	tsa	dsa	Ki	8i	jœ	m
ko	go	je	te	de	a	sa	za	tsa	dsa	ki	gi	jœ	m
KO	OO	je	te	de	a	sa	za	tsa	dsa	ki	gi	jœ	m
ko	8o	je	te	de	a	sa	za	tsa	dsa	ki	8i	jœ	m
KO	GO	JE	TE	DE	A	SA	ZA	TSA	DSA	KI	GI	JŒ	M
ko	go	je	te	de	a	sa	za	tsa	dsa	ki	gi	jœ	m

れ	く	ぐ	や	ま	け	げ	ふ	ぶ	ぷ	こ	ご	ひ	て
O	KŒ	GŒ	JA	MA	KE	GE	FŒ	BŒ	PŒ	KO	GO	JE	TE
O	KŒ	gœ	ja	ma	ke	ge	fœ	bœ	pœ	ko	go	je	te
o	kœ	gœ	ja	ma	ke	ge	fœ	bœ	pœ	ko	go	je	te
O	kœ	jœ	iA	MA	KE	GE	FŒ	BŒ	PŒ	KO	GO	JE	TE
o	kœ	gœ	ia	ma	ke	ge	fœ	bœ	pœ	ko	go	je	te
O	KŒ	GŒ	JA	MA	KE	GE	FŒ	BŒ	PŒ	KO	GO	JE	TE
⊖	KŒ	GŒ	JA	MA	KE	GE	FŒ	BŒ	PŒ	KO	GO	JE	TE

ぞ(ズヂ)	つ	づ(ツウ)	ね	な	ら	ら	む	う	ゐ	の	れ	く	ぐ
DSO	TŒ	DŒ	NI	NA	LA	PA	MŒ	Œ	WI	NO	O	KŒ	GO
dso	tœ	dœ	ni	na	la	pa	mœ	œ	wi	no	o	kœ	go
dso	tœ	dœ	ni	na	la	pa	mœ	œ	wi	no	o	kœ	go
dso	tœ	dœ	ni	na	la	pa	mœ	œ	wi	no	o	kœ	go
dso	tœ	dœ	ni	na	la	pa	mœ	œ	wi	no	o	kœ	go
DSO	TŒ	DŒ	NI	NA	LA	PA	MŒ	Œ	WI	NO	O	KŒ	GŒ
dso	tœ	dœ	ni	na	la	pa	mœ	œ	wi	no	o	kœ	gœ

つ	か	が	よ	た	だ	れ	れ	そ	ぞ	ぞ	ぞ(ズヂ)	つ
VA	KA	GA	JO	TA	DA	LE	RE	SO	ZO	TSO	DSO	TŒ
va	ka	ga	jo	ta	da	le	re	so	zo	tso	dso	tœ
va	ka	ga	jo	ta	da	le	re	so	zo	tso	dso	tœ
va	ka	ga	jo	ta	da	le	re	so	zo	tso	dso	tœ
VA	KA	GA	JO	TA	DA	LE	RE	SO	ZO	TSO	DSO	TŒ
VA	KA	GA	JO	TA	DA	LE	RE	SO	ZO	TSO	DSO	TŒ

ど	ち	ぢ	り	り	ぬ	る	ゐ	を	わ	か	が	よ	た
DO	TI	DI	LI	RI	NŒ	LŒ	RŒ	WO	WA	KA	GA	JO	T
do	ti	di	li	ri	nœ	lœ	rœ	wo	wa	ka	ga	jo	t
do	ti	di	li	ri	nœ	lœ	rœ	wo	wa	ka	ga	jo	t
do	ti	di	li	ri	nœ	lœ	rœ	wo	wa	ka	ga	jo	t
do	ti	di	li	ri	nœ	lœ	rœ	wo	wa	ka	ga	jo	t
DO	TI	DI	LI	RI	NŒ	LŒ	RŒ	WO	WA	KA	GA	JO	T
DO	TI	DI	LI	RI	NŒ	LŒ	RŒ	WO	WA	KA	GA	JO	T

ば	ぱ	に	ほ	ぼ	ぽ	へ	べ	ぺ	と	ど	ち	ぢ	り
BA	PA	NI	FO	BO	PO	FE	BE	PE	TO	DO	TI	DI	LI
ba	pa	ni	fo	bo	po	fe	be	pe	to	do	ti	di	li
ba	*pa*	*ni*	*fo*	*bo*	*po*	*fe*	*be*	*pe*	*to*	*do*	*ti*	*di*	*li*
ba	pa	ni	fo	bo	po	fe	be	pe	to	do	ti	di	li
ba	pa	ni	fo	bo	po	fe	be	pe	to	do	ti	di	li
ba	pa	ni	fo	bo	po	fe	be	pe	to	do	ti	di	li
BA	*PA*	*NI*	*FO*	*BO*	*PO*	*FE*	*BE*	*PE*	*TO*	*DO*	*TI*	*DI*	*LI*
BA	PA	NI	FO	BO	PO	FE	BE	PE	TO	DO	TI	DI	LI

に	ぱ	ば	は	ろ	ろ	ろ	い
NI	PA	BA	FA	RO	LO	悉曇賀長伊 J	I
ni	pa	ba	fa	ro	lo	j	i
ni	pa	ba	fa	ro	lo	j	i
ni	pa	ba	fa	ro	lo	j	i
NI	PA	BA	FA	RO	LO	J	I
Ni	PA	BA	FA	RO	LO	J	I

大意

右の伊ろはは清濁音侯て八十七字を記次界にて濁点とて「ミ」ゟ点を添て自然に清濁を分ぬるで漢土天竺を初天地の万に文字有迄の國々みな清濁の文字ハ別ゟ有ゆえ此字いろはを加る文字なるゆえと知べし

されて開合清濁わきまえて五十音字ハ人の

の喉舌に不合併雖缺舌のもの如くなるべし書に欠たるゟ漢に漢ざるを書げ次不書則乃漢と云ゟ方に書之べ易仮に省略と扱書と灌頂入門と而南学佩觿同階梯

二部の書を熟読とれで学字とむと速して指掌ひらぐ

一のとじ	二のとド	三のナード	四のナード
メルクレッテル	ローマスレッテル	テレッキレッテル	ドルクレッテル

五のナード	六のナード	七のナード
イタリヤアンスレッテル	イタリヤアンスホウストレッテル	ホウストテレッキレッテル

がよ背以て此字はいろはにとかゝる文字あるらんと知べし
しかれに開合清濁あはせて五十餘字見へたれども和蘭の人

の喉舌に不合侏離鴃舌のまじりしものなれども此書に欠ずべる
讀に讀ざれば書けれ不書則不讀といへるが左に書之へ
易次に肖眼と按せ書を灌頂入門と而蘭学佩觿同階梯
二冊の書を熟読すれど蘭字よむこと速にして指掌のごとし

一のすじ	二のすじ	三のすじ	四のすじ	五のすじ	六のすじ	七のすじ
メルクレッテル	ロームスレッテル	テレッキレッテル	ドルクレッテル	イタリヤアンスレッテル	イタリヤアンスホウフトレッテル	ホウフトテレッキレッテル

和蘭文字早讀傳受

○先「レッテル」と云は文字のことなりと第一段の條を「メルクレッテル」といふ大体和漢用ゆる楷書のごとし第二の條を「ロームスレッテル」といつて第三條を「テレッキレッテル」といひて大体真行草のごとし此三体は常當時用ゆる者先此三品讀覚書習ふべし

○元来おらんだは小國なれども此文字も歐羅巴大州の諸國にて此字体なるもおらんだは屬國とて琉球朝鮮などの漢字に從ふごとく此外和蘭にて造し文字にては「イタリヤ」「トルコ」「イギリス」「フランス」などゝ云国々みな此文字を用る事たとへば漢字を我朝琉球朝鮮ともに通用となすがごとし

○七ついろはと云は此文字のはね倶に合せしものゆゑまゝ其働文字を配當し此文字の手鏡とし掛表むるなど按此いろはに引合せ文字をよみし上譯鍵と云書を「ハルマ」と云書に引合見れば何くと云ことおもくなるなり「ハルマ」とは字書と泉州にて出来し字書板にて譯鍵は京にて出来し板行なれどいづれも皆おらんだの字引なり

○泰西歐羅巴の諸州みな皇國のごとく假名文字にて書とゞめゆへ皇國の手本のやうなるもの全下知と法定と疑

字と配当し四五文字の字類く〳〵に洋語ひらがなを仮いろは

に引合せ字をよみ上澤蹇と云書を「ハルマ」と云書に引合
見れば何〳〵と云こと有くるる事り「ハルマ」と和蘭と泉州にて
出来し字極沢蹇に系にて出来仮名ばかりにしたる皆
仮名ばかりなり

○泰西歐羅巴の諸州みな皇國のごとく假名文字にて書
とは少し皇國のごとく無あきまり全く初と法定と類

しかるとたとへば「わけ」を下知之「わけ」と類〳〵法定にて
作こと上のゆけゆこと用こ作用の二を蘭言にしかくんだ有だ
うゑ仮名字初学の既発家にいろはを回志の人と稽古
写字と蘭字共書を書るゝ「ハ」按ずるに元来うる事
なるべし訓式の漢字と遠ひ容易〳〵わるごり純志ひだ
うゑ儒者の國学に疎くうふるばかりひの分らぬ人も知らへ

有とでいふ如皇國に産まれ学者のうふるばかりひに疎と云て
蘭学も容易のごとくうゑ知べし

○歐羅巴とハ「イタリヤ」「トルコ」「イギリス」「フランス」「ホルトガル」なども
云國〳〵大作此文字を用也凡大地の間四大州とて世界にな
ふるとて「アヒヤ」大州とハ「亞細亞」「亞弗利加」「歐羅巴」「亞墨
利加」なり此ふるとて「亞細亞」とハ皇國清天竺韃靼
蝦夷朝鮮琉球なども総合て「亞細亞」とふ泰西輿地圖説と
書わるに付ふるまぎらとして漢易を書こと仮名を用て天竺
なるとをおり仮名書かり

○和蘭の音ハ直るもあるまど多る拗音梵書と同じ様なる
処多し梵書よりハ遠く簡易なるもの之字原二十六内アイウエオ
ユの字母を除て残二十字アイウエオユの音母字に接て字を
作ること仮名をアゼレッテレンとなる皇國のいろはと云ふ

利加」や「ヒ」にかなまりて「ヒ」を「亞細亞」といへば皇國清王の雜報

蝦夷朝鮮琉球などを合て「亞細亞」とつゝ泰西輿地圖況と書わけるまぎらはしにて漢易き書ことをわざと大仰なるもおかしき事かなり

○和蘭の音は直なるもあるもどもなる拗音は梵書と同じ校なる処多し梵書よりは遥に簡易なるもの「ア」字原二十六内アイウエオユの字母を添て殆二十字アイウエオユの音母字に接て字を作ることれをアゼレッテレンといふ皇國のいろはとなぞらへ拗拗音とは皇國にて謂つゞ日本紀に當りの疏速をクエハヤとも源氏物語に変化をヘンクエとも云類ち家の文章に帰命をクエミヤウとも是拗音なり亦直音とは赤穂とアコとも云カホの反なるもばかりに又は家穂とおもふ反とも云イエの反なるもばかりこれを直音といふなり

○按るに悉曇の書梵王造た行梵書伽婁造た行伽書蒼頡造下行篆書とも云へり右行の伽書とも云物に添て蘭字とも云物なるも和蘭にて作ぶる文字にて右行の字なるもば伽書とも云伽字とも云物なるもうるなり

○對馬いろは（アイウエオの五十音のもの）元天竺なる百濟に渡て後皇國の對るへ初て渡日なるこれをいにしへいろはと云

とゝ備蘭字の或沢書に歐羅巴ハ「アエイオウ」と音ハ列位をとるとも正順の音位なるとい「つ」とも後これハ彼に順にして此ハ逆なるべし東西の水土にて音韻同有と彼なる皇國にラリルレロの制なく歐羅巴にてラリルレロを「法」言の間に拾ることあるこれ皇國の正音と表裏となる皇國なれも我内ハ平安と奥羽ハよりと筑紫ハ去なること是ハ彼に是にて此に非なること疑なし

の對るへ初て波巴左これをいにしへさそにしまいろはと云

とゝ備蘭字の或沢書に歐羅巴ハ「アエイオウ」と音列
位をとゝるに正順の音伝るとい〳〵つまり後これハ彼に順
にして此ゆ逆るべし東西の水土にしたがひ音韻自有と
彼るに皇國にラリルレロの訓るく歐羅巴にてラリルレロを
一法一言の間に拾ることわるこゝろ皇國の正音と表裏とるく
皇國にても我内ハ平ゆゝと奥羽ハよゝゝと筑紫ハ去ゝゝと

是ん彼に是にて此に非るゝこゝとべし

一段

○メルクレツル

此件肯彼國の「ローマ」の「ホーフトレツテル」と云件なるに「メルク」
とハ記號なるに「ローマ」とハ國の号にて肯竟舜て号
し兄帝出るに是ゆこゝとぞ「ホーフト」とハ物のはじめとの
愛稱なるに故に号一章の初あるひハ一巻の初に用ゆえいべ

外題書画題あるひハ聯額に章表書に用ゆる正體にて楷
書のごとし

二段

○ロームスレツテル

是に板の書件なるに和漢とも書物の板下の楷書ハみな
明朝体にて甚く強なるを世出来し和蘭の書ハそれ
ロームスレツテル件なり板和蘭いふ泡板の体に思べし

たゝあるに泡画ハいふも泡板と書ハ松の活板なり

三段

○テレツキレツテル

テレツキとハ曳ことし弟に書物日記ゆに用ゆる件なり
文字を粒〳〵に分て書ゆへテレツキとゝ云

四段

○ドルクレツテル

ドルクとハ壁にとゝるに板の文字にして肯ハ用ひ
たゝとゝも今ハ用ゆることまれなりとぞ

ゆ[illegible]ローマスレッテル作りり板和蘭ハふる湖板の板ハ思へども

たゝよわゝ次画ハいろふも湖板と書ハ松の活板なり

三版

○テレッキレッテル

テレッキとは曳ことゝしれハ常に書簡日記ハに用ゆる作なり

文字を粒〳〵に仮て書ゆへテレッキとゝなゝ

四版

○ドルクレッテル

ドルクとハ壁ゝゝふるゝと板行の文字にして皆ハ用ひ

たゝどゝ今ハ用ゆることまれなりゝとぞ

五版

○イタリヤーンスレッテル

イタリヤハ國の名おゝと皇國清天竺ゝるどゝいへるゝと大國

にあゝきゝにゆゝふる文字ゝ

六版

○メルクレッテル

メルクハイタリヤーンスのホウフトレッテルなゝとホウフト

メルクゝもに初版の注に述ぶ

七版

○ホウフトテレッキレッテル

テレッキゝゝゝてホウフトゝゝたゝゝゝ和漢書籍の表紙

の見返ゝ篆隷諸体の大字ゝゝて標題ゝゝ文傷ゝる

ものゝゝひと

右七体の内一二三版の像れゝ体ハ尚今ゝ勢ゝ行る

有益備急の書作ゝ醫療療薬ユ医雑事家先ゝ体

ゝゝと学び初てする良

附言

○一めゝ長ハ上の音ゝ引ゝおゝたゝゝだゝゝゝ

ゝゝ長を書ゝひゝゝ「ローマ」ホーフトなど

○・丶＋みゝ國後ゝゝと一字一ゝ各區別ゝゝと澤建ゝ

○テレッキゝゝ曳ゝ長ゝ

右七件の内一二之除の條は、之件は蕃人の勞と為る

有益備忘の書件と醫療採藥工匠雜事家兵法之件

よつて学び初てすべき也

附言

○一めの字は上の音を引き長くおつたとへばわ〜わ

音を長を引くよひとへ〜「ローマ」ホーフトおと

○・ゝ＋みな圜發おと一字一句各區別あり澤建あ

○テレツキとは曳と云義之比喪書紙のごとく離て書べ

くゝ畢竟比書ハ字を拗く音と區字を造るを知

ものひるまでよアベセレツテレンの字を書くことを知る也

○句讀の点の外に一言一句の初の字はいづれも大字よ

書して句讀とるつなり

○アベセレツテレハ字母にして畢竟漢字の篇冠字是

のめくにて且字義は彼國にて拗音勝りと云よみ形

○を来アベセレツテレンと見て近邇よ音の合ふ字あるもだ

拓牌紙書ども是ふるとみな直音ふるもこれ形なり初

アイウエオの外に二十字ともて一字をなすべ故啞字

ともと云也又蘭人の辰古に字上云の音によりて直音

にて云ふとわと拗音のようもわ〜ゐと更へるとと啞字と

しばうと云涙もこれ紙〜

○比書殘字宵分ハ副で出る也畢竟漢を引而已

に人ごとわつと物音のとゝまるまでわつと見てゐる唖字と

とばうと云涙もこぼす～

○此書殘字宵分に顯で出たる畢竟樓を引而已

殊色礫者不奇以多產蘭学異者爲妙雖直
解盡物金沈蓮者一の屠尋常矣嘗五巫野
叟亦自四學而爲黑者也然固之諸生彰也
古民彼致蘭人究理之多有益於世用者學
得從彼以雜揚而任然徒已而已愛人因

東牖別勸千里一步之出脚而爲沒世書焉
予其如擇同嗅而校之故於爲好厭字之士
此不可說致田宮東牖名悠字仲宜号盧
橋菴世京師之人今河州於弓削鄉僑居也

環　軟圃誌

盧橋菴先生著書目

和蘭文字早讀傳受　殘字篇　近刻　一冊
醫律小言　全　二卷
傷寒論示蒙辯　全　五卷
三物備考　全　一卷

殊色礫者不奇以多產蘭字奚者為妙難直
解蓋砂金沈蓮者一の屑尋常矣嘗之匹夫野
叟亦自四學而為黑者也然固之諸生彰也
士民彼欲蘭人究理之多有益於世用者學
得從彼以雜揚而任然徒已而已愛友人因
東牖弟勸千里一步之出脚而為投此書焉
予其如擯同嗅而校之故於為好厭字之士
此不可說欲田宮東牖名悠字仲宜号盧
橋菴世京師之人今河州於弓削鄉僑居也

環　軟圃誌

盧橋菴先生著書目

和蘭文字早讀傳受　殘字篇　近刻　一冊
醫律小言　全　二卷
傷寒論示蒙辯　全　五卷
三物備考　全　一卷

文盛樓藏

文化十稔甲戌春　浪速書房心齋橋通北二丁目　秋田屋太右衛門梓